

市長就任挨拶

釧路市

平成20年第5回釧路市議会 11月臨時会
(平成20年11月17日)

平成 20 年第 5 回釧路市議会 11 月臨時会の開会にあたり、釧路市長就任のご挨拶を申し上げます。

はじめに、本会議冒頭に発言のお許しをいただきましたことにつきまして、二瓶議長並びに議員の皆様のご高配に対し、心から深く感謝を申し上げる次第であります。

私は、去る、11 月 2 日に執行されました釧路市長選挙におきまして、多くの市民の皆様のご温かな、かつ力強いご支援を賜り、市政運営の重責を担わせていただくことになりました。

本日で、当選から 15 日、市長就任から 13 日目となりますが、市長の職責の重みを改めて全身に感じ、その責任の重大さに身の引き締まる思いの毎日でございます。

未来の明るい釧路市を、市民と、釧路市に想いを寄せる多くの方々と共に築きあげるとの固い決意を胸に、街づくりに邁進して参りますので、二瓶議長、藤原副議長並びに議員の皆様のご指導、ご助言、ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

さて、世界では今、ボーダレスな金融危機に伴う実体経済の減退が懸念されており、日本においても経済対策が喫緊の課題となっております。

また、人口減少社会の到来、少子高齢化の進行による社会構造の変化は、社会保障制度をはじめとした既存制度の大きな変革期を迎えたと評されております。さらには、地方分権の理念に基づき、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現を図るため、国及び地方が分担すべき役割を明確にし、地方の自主性及び自立性を高めることによって、地方公共団体が自らの判断と責任において行政運営することを促進するとして、国と地方の関係も大幅に見直されております。

このような中、地方都市の満足度を高め、分権社会の持続的な担い手として発展するためには、人材を含めた、地域のあらゆる資源を活用し、その基盤を強化することが必要不可欠な時代となっております。

そのため、先ず、私は、多くの市民の皆様が参画して策定されました釧路市総合計画と活力創生釧路市集中改革プランを、確実に推進・実践することが重要であると考えております。

釧路市には、釧路湿原、阿寒という 2 つの国立公園をはじめ、海・山・森林・湖沼・河川など、世界に誇れる豊かな自然と恵まれた資源があり、これらを有効に活用しながら、一次産業と他の産業が連携、協力し、付加価値化を高めることにより、街全体が発展する可能性を秘めております。

併せて、釧路管内の町村、さらには根室地域と連携、協力することにより、道東地域全体での更なる発展が望めるところでもあります。

また、釧路市ではこれまで、釧路根室圏の地方センター病院である市立釧路総合病院の増改築工事、総合体育館「湿原の風アリーナ釧路」の完成など、東北

海道の中核都市としての機能強化が進められており、現在は、国の重要港湾に指定されている釧路港の耐震旅客船岸壁やガントリークレーンなどの整備、北海道横断自動車道などの高速交通ネットワークの整備も順調に進んでおります。また、音別地区でのコミュニティーセンターの建設、阿寒湖畔地区の「まりむ館」の着工、阿寒中学校の改築、湖畔小学校の着工など、地域のコミュニティ活動の醸成や子供達の安心安全のための施設整備も着実に実施されております。

私は、社会資本整備は、その存在自体が目的ではなく、新たな街の賑わいを創出したり、お年寄りから子供達までが、この街で健康にいきいきと暮らすことに寄与することを目的として、社会ニーズに合致した整備を進めることが重要であると考えております。

恵まれた地域の自然や資源を最大限に活用しながら、これらの基盤の上に、既存産業の振興や新たな産業の創造、安心安全の街づくり、そして、文化を育み、人を育てる街づくりに邁進してまいります。

特に、音別地区については、酪農や林業という資源を活かした新たな付加価値資源の開発に努めてまいりたいと考えております。

阿寒湖温泉地区については、北海道を代表する観光地、温泉地であり、この地域のポテンシャルを最大限に活用した滞在型、体験型観光地としての魅力づくりを促進してまいります。

阿寒町地区につきましても、身近にある豊かな自然と融和した農業地帯という地域特性を活かした振興策の検討を進めてまいります。

一方、自主自立の街づくりを進めるためには、財政の健全化が、釧路市の喫緊の最重要課題であります。

釧路市では、三位一体改革や歳入・歳出一体改革などによる交付税の減少や、地域経済の低迷による税収の落ち込みなどによる苦しい財政状況の中、これまでも行財政改革に積極的に取り組んできたことにより、特色ある街づくりが進めてこられたものと評価しているところでありますが、未だ厳しい財政状況に変わりはありません。

社会情勢の変化に合わせ、常に新しい視点、観点で行政全般の見直しを行いながら、財政の健全化を図っていくことが必要不可欠であります。

限られた財源の中で、市民ニーズに合致した行政サービスを効果的かつ効率的に提供するため、今後とも、行政と民間の役割分担や、将来世代へ負担を先送りしないということを強く意識して、業務の民間委託や外部化による職員定数の適正化、事務事業の見直しなど、行政の一層のスリム化を推進し、簡素で効率的な市役所を実現したいと考えております。

以上が、私の街づくりにあたりましての基本的な考え方ではありますが、その基礎となる釧路市総合計画と活力創生釧路市集中改革プランを着実に推進するためには、地域で暮らす市民の皆様のご理解とご協力が大きく関わってまいり

ます。

そのためにも、市民と行政の距離を縮める市政運営、端的に申し上げますと「市庁舎から飛び出す・顔の見える行政」を実践したいと考えております。

これは、市職員も市民でありますから、市民との垣根をなくして、痛みや喜びを共に分かち合える街づくりを目指すべきとの観点からの発想であります。行政が積極的に街に飛び出し、市民の皆様とのコミュニケーションを深めることにより、はじめて厳しい時代を乗り切るための真の協働の街づくりが実践されるものと確信しており、そのための体制づくりも重要であると考えております。

街に飛び出し、様々な分野で意見交換を行うためには、職員一人ひとりの職責に伴う、更なる専門性や知識が必要になります。

併せて、それぞれの部署においても、セクト主義にとらわれない、大きな視野に立った観点からの業務の遂行が求められており、部単位の管理スパンを広げるなどの対応も必要であると思っております。

街はどこまでも人と共にあり、人が主役であり、市民一人ひとりにとって「誇りもて語れる街」が、街づくりの基本であり、市民が誇りを持って、街を語れる釧路市を築いてまいりたいと考えております。

そして、この過程の中で、私の政治信条である「この街釧路で暮らすことの喜びと、新しい日が素晴らしき日となることをみんなで語り、そして願いたい」という目標が達成できるものと確信しております。

「誇れる街」釧路市の創造に向けて、勇気と決断、情熱を持って、全身全霊を傾注し、市政運営に当たりますことを改めてお誓い申し上げますとともに、市民の皆様、並びに議員の皆様のご支援とご協力を心からお願い申し上げ、臨時市議会にあたりましての、市長就任挨拶とさせていただきます。